

## 「旭山動物園の奇跡」を読んで

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

最近、体重オーバーでフィットネスに通っています。おかげ様で食事制限なしで2キロぐらい減量できました。1時間ほど自転車こぎをしていると暇なので随分本を読めます。そのなかで「旭山動物園の奇跡(扶桑社)1100円」にはびっくりしました。



代表取締役社長 吉田治伸

平成8年に26万人の入場者で廃園寸前までいった日本最北の旭川の弱小動物園が平成16年には140万人の入場者を記録し、日本一になった話です。最大のきっかけは市長がかわり予算がつき、施設がリフォームできたことです。「行動展示」といわれる数々の人間と動物の距離を近づけた展示方法は、常識をくつがえすものでトラやヒョウが手を伸ばせばとどきそうな頭上で昼寝をしていたり、水中トンネルの向こうにはアザラシやペンギンが目の前で泳いでいたりするそうです。展示の方法ばかり、話題になりますが、本を読むとわかるのが、本当の躍進の理由はそこではないことです。

躍進の理由は、「飼育係」たちの「理想の動物園」を作りたい。入場者に楽しんでもらいたい。という熱意であります。

飼育係がオリの前にたち、動物の説明をしたり、食事を食べるころ説明したり、という活動は随分前から行っていますし、「行動展示」は、長年皆で語りあっていた夢を実現したにすぎません。

本を読んで勇気づけられるのは、「誰でもその気になれば実現できる。」という事です。北の動物バカ集団が日本一になるなんて拍手喝采以外なものでもありません。

仕事を通じて涙のでるような感動を味わいたい。

その気になって活動して成長を味わいたい。

そんな気持ちになりました。